

北九州SDGsクラブ 第3回交流会 次第

令和2年2月4日（火）14時～17時

北九州国際会議場

- 1 開会 （14：00～ 5分間）
主催者あいさつ
- 2 事務局説明（14：05～ 5分間）
北九州SDGsクラブの最近の動き及びプロジェクトチームについて
- 3 第1部（14：10～ 50分間）
プロジェクトチーム活動紹介（4チーム×10分）
 - ①「北九州市の地域防災力向上のためのアクションプラン
～産官学民連携 防災・減災意識啓発プラン『北九州モデル』～」
明治学園中学校・高等学校 自然災害と防災・減災チーム
高校3年 鳥巢 耕平 様、湊 姫 様
 - ②「教育旅行コンテンツ Rethink YAWATA」
株式会社 JTB 北九州支店 観光開発プロデューサー 林 辰雄 様
北九州市立大学 地域創生学群 地域創生学類
小林ゼミ / ESD プロモート実習2年 大城 楓香 様
 - ③「北九州市 企業・事業所対抗ウォーキング大会」
日本生命保険相互会社 営業企画部 営業企画グループ
課長代理 工藤 雅史 様
 - ④「学びのスクランブル交差点」
公立大学法人 北九州市立大学
基盤教育センター 永末 康介 様
- 4 休憩 （15：00～ 10分間）
- 5 第2部（15：10～ 110分間）
ワークショップ
 - 【A】「シンボリックな取組み ワークショップ」（北九州私立大学短期大学連携事業）
講師：梶谷克彦（西日本工業大学デザイン学部建築学科准教授）
 - 【B】①「西日本シティ銀行 SDGsカードゲーム」
講師：西日本シティ銀行員5名
②「SDGsセミナー」
講師：北九州市企画調整局SDGs推進室
 - 【C】「レゴ®シリアスプレイ®メソッドを使ってSDGsを見つめ直す」
講師：大田真彦（九州工業大学人文社会系准教授）、他
- 6 閉会 （17：00）



この資料は北九州市役所内の使用済み文書から生産した再生紙を使用しています。再生紙を生産した PaperLab（ペーパーラボ）は令和2年3月末まで北九州市環境ミュージアムで展示・実演中です。

ワークショップの概要

【ワークショップA】定員50名

「シンボリックな取組み ワークショップ」(北九州私立大学短期大学連携事業)

講師：梶谷克彦(西日本工業大学デザイン学部建築学科准教授)

時間：2時間

「SDGs 未来都市」に選定されて、今年で3年目。本市は、SDGsのトップランナーを目指し、先進都市となるべく市民が一丸となったSDGsのシンボリックな取組みのアイデアを募っています。「まちづくり」の観点で、あなたのアイデアを形にしてみませんか？町ぐるみで取り組むSDGsについて、自由な発想でアイデアを出すグループワークです。

【ワークショップB】定員50名 ※1時間ごとに①、②の両方を受講するコース

①「西日本シティ銀行 SDGsカードゲーム」

講師：西日本シティ銀行

時間：1時間

西日本シティ銀行の若手行員が考案した、遊びながら地域活性化のアイデアを生み出すカードゲーム。瞬間的な発想力を鍛える内容になっており「新入社員ら大人の研修でも十分に通用する」と、行内で話題を呼んでいます。『海外からやってきた観光客』のおもてなしを、『パーティー好きな人』が『商店街』でやれば、とっても盛り上がると思う！」「飛行機」「商店街」「博多どんたく」など、数十枚のカードにはさまざまな図柄と文字が印刷されています。複数のカードを自由に組み合わせ、街の活性化アイデアを競います。

②「SDGsセミナー」

講師：北九州市企画調整局SDGs推進室

時間：1時間

あらためてSDGsのことを知りたい方向けの入門編セミナー。世界がSDGsをなぜ必要としたのか、その背景や仕組みなどをわかりやすく説明します。

【ワークショップC】定員20名

「レゴ®シリアスプレイ®メソッドを使ってSDGsを見つめ直す」

講師：大田真彦(九州工業大学人文社会系准教授)

時間：2時間

レゴ®シリアスプレイ®メソッドとは、レゴ(LEGO)ブロックを用いて、自分の内なる考えを作品にし、物語を語り合い、新しい気づきを得るものです。組織のビジョン作り、個人のキャリア開発、チームビルディングなど、様々なシーンで活用されており、アメリカ航空宇宙局(NASA)やGoogle、TOYOTAなどでも導入された実績があります。ブロックを触りながら手を動かすことにより、頭で考えるよりも、「作りながら学ぶ/気づく」プロセスを体験します。本ワークショップでは、この手法を用いて、各人が「自分にとってのSDGs」を振り返り、見つめ直す機会にして頂ければと考えています。

北九州市の地域防災力向上のためのアクションプラン ～産官学民連携 防災・減災意識啓発プラン『北九州モデル』～

提案者：明治学園中学校・高等学校 自然災害と防災・減災チーム

プロジェクトの目的(解決したい課題など)

近年日本では自然災害が多発しており、従来から自然災害が少ないと言われていてきた北九州地域においても他人事とは言えない。そうした中、いざという時のために、北九州地域の「地域防災力」向上を図ることは急務である。

本プロジェクトは、地域防災力向上のための啓発活動を、産官学民連携 防災・減災意識啓発プラン『北九州モデル』として実施し、このプランを日本全国への普及を図ることを目的とする。

関連するゴール

4・11・17

活動概要

活動①

防災・減災意識向上のためのシンポジウム企画・開催

活動②

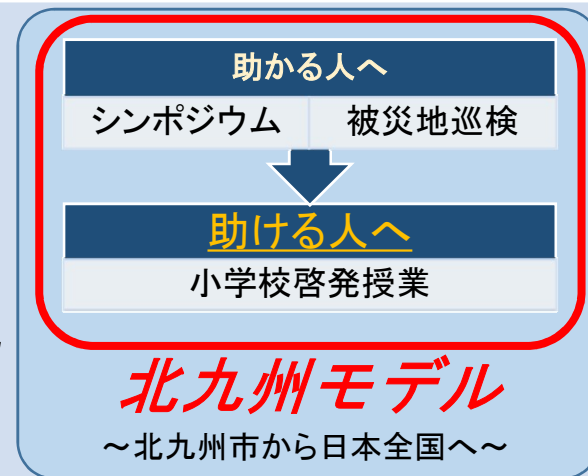
防災・減災意識向上のための被災地巡検企画・実施

活動③

防災・減災意識向上・普及のための小学校啓発授業実施

活動④

防災・減災意識向上のための新規啓発プラン考案・実施



成果・数値目標

防災・減災意識向上のための啓発活動 延べ参加高校・大学数10校 など

教育旅行コンテンツRethink YAWATA

提案者：株式会社JTB北九州支店

プロジェクトの目的（解決したい課題など）

北九州市立大学とJTBが協業し、SDGs未来都市北九州を舞台に旅行コンテンツを開発するもの。SDGsを織り込んだ教育旅行を提供することは、「交流人口の増」に寄与し、さらには「SDGsの認知度」向上に貢献する。

域外・域内の中高生対象としたSDGsを学ぶ教育旅行コンテンツを提供することで、次世代を担う若者に自分ごととして“まちづくり”を考えるきっかけをつくる。

関連するゴール

4. 質の高い教育をみんなに

11. 住み続けられるまちづくりを

活動概要

北九州市立大学地方創生学群小林ゼミの学生とJTBが協業し、域外・域内からの教育旅行コンテンツを造成。

- ・約4時間程度の体験プログラムとする
- ・フィールドワーク（町歩き）とワークショップ2部構成。
- ・ファシリテーターとして大学生が、4～7名の班構成した中高生を引率
- ・3回程度のトライアル実施
- ・舞台は、東田地区



成果・数値目標

2020～2021年度に開催する「Rethink YAWATA」のプログラム 参加者数（目標100名）

北九州市 企業・事業所対抗ウォーキング大会

提案者：日本生命保険相互会社 北九州支社

プロジェクトの目的（解決したい課題など）

- 全国平均に劣後している健康寿命の全国平均へのキャッチアップ
- 市として掲げている「健康（幸）寿命プラス2歳」の中で、2022年までに目指す姿の項目「6. 健康づくりに取組む企業100社以上を目指します。」の達成

関連するゴール 「3：すべての人に健康と福祉を」 「8：働きがいも経済成長も」

活動概要

北九州市 企業・事業所対抗ウォーキング大会



- 企業・事業所対抗歩数対抗戦
- 期間は3週間～1か月
- 計測や途中経過はスマホアプリ上で管理
- 企業・事業所と個人で順位賞
- 目標：100社参加



- アプリ上で参加企業の順位や自所属内の自分の順位もリアルタイムで確認!!
- ※スマホアプリJaruku&(あるくと)使用

上位企業・事業所と個人には順位賞贈呈!!



運営・対面サポート 日本生命



- 大会運営とアプリの管理
- イベント告知やアプリの登録勧奨など対面サポート
- 「GO!GO!あるくっちゃKitaQ」の宣伝も併せて実施

協賛団体とともにイベントを盛り上げ

効果
検証

順位賞
賞品提供

メディア
での告知

ウォーキングイベント等
とのコラボ

等

協賛団体には、北九州支社700名の営業職員網での協力(ビラ配布、アンケート)やイベント参加者へのアプリ上宣伝、日本生命での社内斡旋を検討

成果・数値目標 イベント動員100社以上

学びのスクランブル交差点（仮）

提案者： 永末康介（北九州市立大学 基盤教育センター）

プロジェクトの目的（解決したい課題など）

SDGs全体の達成のためには、未来社会を支える人材育成が不可欠である。その社会課題解決に向けて、教員に加えそれ以外の人たちが協同して教育に関して対話や交流できる場を作ることが一義的な目的である。そして、その場における学びを教育現場に還元させて、これからの若者などがより良い「市民」（future-ready “citizen”）になるように手助けすることを使命としたい。

関連するゴール

4. 質の高い教育をみんなに 8. 働きがいも経済成長に 17. パートナリーシップで目標を達成しよう

活動概要

- ① ワークショップなどを含む情報交流会 [年数回]
（教育に関する情報交換 [ex. 「総合的な探究の時間」、高大接続、産学連携] や、企業などから教育機関に向けたSDGsを活用した教育コンテンツなどの紹介）
- ② 教育機関でのSDGs関連教育 [通年]
（①などで得られた知見を通じた学習者に向けた教育の提供）
- ③ 成果報告会 [2～3月予定]
（各教育機関などでの教育活動や②で得られた学習者の成果を披露する場）

成果・数値目標

2020年度の成果発表会での参加団体数：30団体（教育機関含む）